

再評価結果（令和7年度事業継続箇所）

担 当 課:道路局 国道・技術課

担当課長名：西川 昌宏

事業名	宮古盛岡横断道路 宮古～盛岡 (一般国道106号 箱石達曽部道路)			事業区分	一般国道		事業主体	国土交通省 東北地方整備局	
起終点	自：岩手県宮古市箱石 至：岩手県宮古市川内						延長	9.7km	
事業概要									
宮古盛岡横断道路は、岩手県宮古市から岩手県盛岡市に至る高規格道路である。 箱石達曽部道路は、宮古盛岡横断道路の一部を形成し、岩手県宮古市箱石から宮古市川内に至る延長9.7km、2車線の自動車専用道路である。									
R3年度事業化			R1年度都市計画決定		R5年度用地着手			R1年度工事着手	
全体事業費		約470億円		事業進捗率		約1%		供用済延長	
計画交通量		7,300台/日							
費用対効果分析	B/C	EIRR	総費用		(残事業)/(事業全体)		総便益		(残事業)/(事業全体)
	(事業全体)	(事業全体)	600/4,818億円		684/4,873億円				基準年
	1.01 (0.9)	4.1%	事業費：589/4,700億円		走行時間短縮便益：605/4,456億円				令和6年
	1.4 (1.4) [2%]	(3.7%)	維持管理費：11/69億円		走行経費減少便益：55/335億円				
	1.7 (1.8) [1%]		更新費：0/50億円		交通事故減少便益：24/83億円				
果分析	(残事業)	(残事業)	感度分析	(事業全体)			(残事業)		
	1.1 (0.97)	4.8%		交通量	B/C=0.9～1.1 (±10%)		交通量	B/C=0.9～1.4 (±10%)	
	1.7 (1.4) [2%]	(3.8%)		事業費	B/C=1.00～1.02 (±10%)		事業費	B/C=1.04～1.3 (±10%)	
	2.1 (1.8) [1%]			事業期	B/C=1.01～1.02 (±20%)		事業期間	B/C=1.04～1.2 (±20%)	
事業の効果等									
①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の年間渋滞損失時間及び削減率 (渋滞損失時間：11.9万人・時間/年、渋滞損失削減率：約8割削減)									
②安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる (宮古市～岩手医科大学附属病院 現況：94分⇒整備後：90分)									
③災害への備え ・岩手県地域防災計画において、国道106号や宮古盛岡横断道路が緊急輸送道路（第1次路線）に指定									
他10項目に該当									
関係する地方公共団体等の意見									
○岩手県知事の意見 1 「対応方針（原案）」案に対して異議ありません。 2 一般国道106号箱石達曽部道路は、自然災害に強い道路ネットワークの構築、宮古地区の救急医療活動の支援、重要港湾宮古港へのアクセス向上による物流路線としての機能強化などの効果が期待されることから、コスト縮減にも最大限に配慮しながら、事業の進捗を図るようお願いします。 ○以下の団体等から、箱石達曽部道路の整備促進について要望あり ・宮古市、岩手県商工会議所連合会									

事業評価監視委員会の意見

- ・対応方針（原案）の事業継続は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・令和3年度新規事業化、用地進捗率約1%、事業進捗率約1%（令和6年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない。

施設の構造や工法の変更等

- ・新技術の積極的な活用等により、コスト縮減に取り組む。

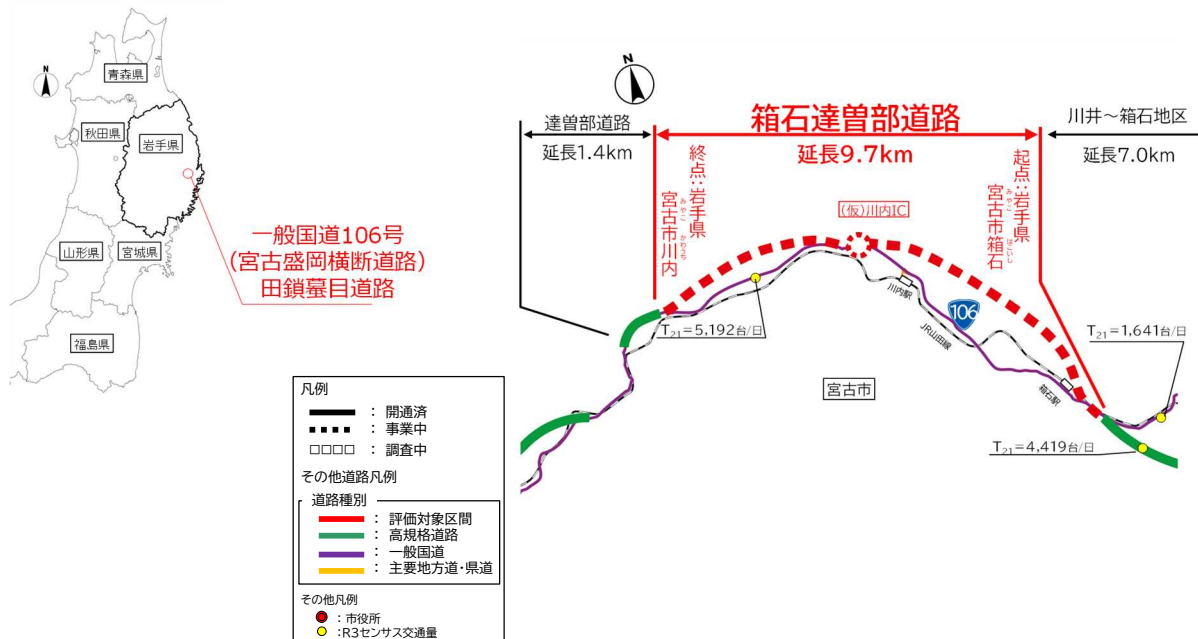
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・災害時の信頼性の確保、医療支援、地域産業支援・物流支援等のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率（4%）を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。（〔 〕内は社会的割引率の値）